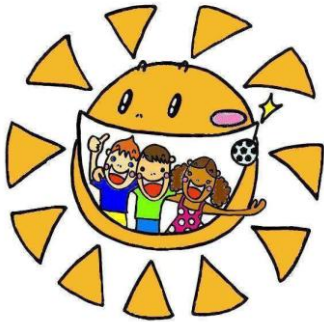


★KOBE KODOMO NIKONIKOKAI NEWS★

こうべ子どもにこにこ会 ニュー

ス



第1号 2007年1月発行

〒658-0022

神戸市東灘区深江南町 4-12-20-201

TEL&FAX 078(453)7440

ごあいさつ

ようやく、日頃の私たちの取り組みや思いなどをニュースとしてお伝えすることができる会報の第1号を発行することができました。

2002年5月、ニーズの変容に伴い東灘日本語教室（大人対象）から独立する形で立ち上がって早、4年がたちました。ここまで来られましたのも皆さまの支えがあったからこそです。

これからも子どもたちが一人ひとりの個性を尊重し、社会で自立していけるために。そして、多文化共生社会実現のためにも皆さまと力を合わせ精進していきたいと思っております。

変わらぬご支援・ご協力をお願いいたします。

コーディネーター 田中香織



日本語・教科教室

日時 毎週木・土 16:00~18:00

場所 神戸市立本庄地域福祉センター

2002年11月より、地域の方々のご協力により当施設を利用させていただいています。日常会話（生活言語）に支障がなくても、高学年になるにつれ、出てくる語彙も難しくなっていく、教科内容を日本語で理解する（学習言語）ことは容易ではありません。現在ブラジル、ペルー、フィリピン、中国、韓国など様々な文化背景を持った学齢期前から中学生までの幅広い年齢の子どもたちがそれぞれのレベルに合わせてボランティアとマンツーマンで学習をしています。

そして、最後の「終わりの会」では、みんなで集まり、その日学習したことを発表、評価し合います。司会も交代で担当し、勉強以外のことも多く学んでいます。

●グループワーク●

特に算数の四則計算、小数や分数、図形等を苦手とする子どもたちが多いのです。

1対1によるサポートを行うだけでなくことばの壁により学校の授業だけではいまひとつ理解しづらい概念や意味を、実際に身近な物を使っての実験や、体を動かして体験することなどの実践を通して理解することを目的としたものです。



12月7日（木）は、算数の割合・百分率というテーマで行いました。



当日は雨のせいもあり、集まった児童が少なかったのですが、みんなそれぞれが集中して真剣に授業を受けている様子でした。

授業内容は、まず自分たちの身近にあるものの中で、どのようなものに割合・百分率が使われているのかを考えました。

その後、実際にアメやチョコレートを使って、それぞれの割合について考え、その割合を百分率や分数の形式に置き換えてみるといったものでした。また、グループワーク授業の後はそれぞれのレベルにあった割合・百分率に関する問題を、個別に考えました。

みんなで一緒に考えるという機会が少なかったのですが、これからはもっとこのような機会を増やしていければと考えています。

●朗読・保護者会●

2005年から、定期的に朗読会・保護者会を開催しています。

国語の教科書を読む子ども、自分の好きな絵本のお話を読む子ども、詩を読む子ども。一生懸命練習した成果を保護者の前で発表しました。みんなとても上手に読めました。ボランティアからメダルや表彰状を受け取りました。これも自信を育む大切な機会です。最後に、にこにこでどのような学習をしているか、家庭や学校での生活も含め保護者とお話をしました。





●クリスマス会●

子どももボランティアも毎年楽しみにしているイベントのひとつです。今年
はいつもの学習場所でお菓子やチキンを食べながら、もじもじゲームで背中
の文字を読み合いひとつの言葉を完成させたり、にこ
にこ〇×ゲームやバルーンアート体験などをしました。

普段、母語教室にしか来ていない子どもたちや先生、居場所づくりで
一緒に遊んだり勉強してくれている日本人のお友達とも仲良く楽し
みました。

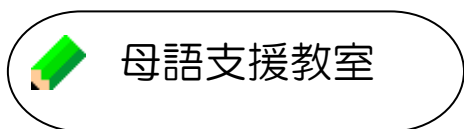


●ボランティア研修会●

「学習者が自発的に勉強するための方策について」というテーマでポートフォリオを用い
た内部研修が開催されました。ボランティア約20名が参加し、学習支援法を改めて考え
直す機会となりました。



一時的な学習ではなく、それを生活の中で使えるようになるための
工夫や観察・分析・分類・規則化・予測など得意としているこ
との中から様々な能力を伸ばすことや、一歩ずつ学習の道のりを
どこまで進んでいるのかをお互いに確認することの大切さを感じ
た、などの反省が挙げられました。



母語支援教室

日時	毎週金曜 16:00~18:00
場所	神戸市立本庄小学校

2002年5月より、スペイン語母語教室を開催しています。

2004年度までは東灘小学校、2005年度より本庄小学校のご協力をいただいています。
今年度からは、本庄小学校が兵庫県の母語教育支援センター一校に選ばれたため、その事業に協力
する形で開催されています。

近隣の小中学校に通っている子どもたちも含め、9人の子どもたちが小学生クラス、中高生
クラスに分かれ学んでいます。

来日期間が長期化するにつれて母語を忘れてしまっている子どもや幼少期に来日したため
家庭での日常会話を話すことができても、難しい話になると理解することが難しい子ども、読み
書きが苦手な子ども、学校では分かりにくかった内容が母語での説明だと理解しやすい子ども
など 来日背景や家庭環境により様々です。

また、第二言語である日本語
での学習においても、母語
で思考を支えることばの力
をつけることはとても大切
なことです。

自国の文化や社会への認識
を深めることによって自ら
のアイデンティティを
見つめ直す機会にもなって
います。



深江多文化子どもまつり

深江多文化子どもまつり2005

深江多文化子どもまつり2004



各国料理の屋台



サンバ（ブラジルの民族舞踊）体験

2004年より、食文化など身近なものを通して日本人住民と外国籍住民が協力・理解し合える場として「地域の多文化共生」をテーマにした子どもまつりを開催しています。（共催：多文化共生センターひょうご、東灘日本語教室など）

継続的な運営を実現させるため、今年度は実行委員会を立ち上げ、当会は事務局を務めました。

11月19日（日）雨天の影響により、昨年ほどの参加は見込めませんでした。各国料理の屋台（11カ国13屋台）、さまざまな文化の踊りや歌などのステージ、カポエイラ体験教室、フォトコンテスト、製作アートコーナー、ゲームコーナーやビンゴ、フリーマーケット、東灘消防署のご協力をいただき多言語救急・AED講習などを行いました。

屋台では、実際にその国の言葉を使って注文ができるしかけを作りました。

そして、近隣の小中学校、自治会をはじめたくさんの方々にご協力をいただきました。また、今年度は24の地域の商店や会社等より協賛をいただきました。

この場をお借りしまして改めて御礼申し上げます。

来年度はより地域に密着したおまつりをめざします。

深江多文化子どもまつり2006



①カポエイラ（ブラジルの民族舞踊）体験教室



②フォルクローレ（ペルーの民族舞踊）を踊る母語教室の子どもたち



居場所づくり事業

近年、子どもたちの居場所や異世代間の交流が減っているといわれています。また、国籍に関係なく自分自身に対して自信や意欲を持たない子どもたちも増えています。

ともに遊びや学習、地域の方々とのふれあいを通して様々な体験活動を行なっていく中で、地域全ての子どもたちが自信や誇りを持ち、自分以外の存在も一人ひとりの個性として認め尊重し合うことの大切さを学んでほしいと願っています。

●七夕まつり●



2004年から毎年、深江地区まちづくり協議会が主催する七夕まつりに参加しています。児童館の子どもたちと一緒に短冊や笹飾りをつくり地域の方々と一緒に飾り付けをしています。

にこにこの子どもたちは、表を日本語で、裏を自分の母語で願い事を書きます。

子ども会や学童などたくさんの子どもたちの笹といっしょに毎年6月下旬から7月上旬まで、阪神の深江駅花苑前やその近くの旧西国浜街道に飾られています。

● 夏休み宿題教室 ●

本庄小学校のご協力を得まして、7月21日～8月31日までの25日間夏休み宿題教室を開催しました。

各自リストを作り、いつまでに何を終わらせるか計画を立ててワークや自由研究などに取り組みました。

また、こうべサイエンスクラブの森本先生に来て頂き理科の実験教室をしたり、児童英語の西田先生に来て頂き様々な国の文化に触れるゲームをしたり、神戸市立青少年科学館へ社会見学にいきました。国籍を超えて、たくさんのお友だちができました。



●児童館の子どもたちとの交流●

毎週日本語・教科教室の活動をしている地域福祉センターの上が本庄児童館になっています。

勉強時間の前の時間を利用して 定期的に自分の国について紹介したり、一緒に遊んでいます。いつも児童館の子どもたちが、私たちの学習している横を通るとき、手をふってくれるようになりました。



会員募集

会員になって私たちの活動を支えてください。

- **正会員**【年会費 5000円】 個人
総会での議決権がある会員です。
- **サポーター会員**【年会費 101000円】 個人10人以上・法人100人以上
経済的な支援を頂く賛助会員です。

郵便振替 0090-4-251298

こうべ子どもにここ会

※この度、規約改正（2007年1月20日）にともない 会員制度が変更されました。

編集後記

ずっと気になっていた会報の作成にようやく着手することができました。来年度からは年4回定期的に発行できるようにしたいと思います。（た）